

4-3

行為別事項 【3】 鉱物の掘採又は土石の類の採取

1 遮へい

ア 出入口の制限

行為地外からの出入口は最小限に限定し、行為地が道路から直接見通せない位置になるよう配慮して設置すること。

【基準のねらい】

鉱物の掘採や土石の類の採取の行為地は、自然景観の中で行われることが多く、目立ちやすいため、道路から行為地が直接見通せないよう、出入口を最小限に限定して配置し、周辺の景観に影響を与えないような配慮が必要です。

【景観づくりの手法】

□ 出入口の数を最小限とする

出入口の数を最小限に限定して配置することにより行為地を見通しにくくすることができ、また自然景観に影響を与えないようにします。

□ 出入口は行為地を見通すことができない位置に設置する

交差点や民家の正面などは、直接行為地を見通すことができる場所であるため、これらの位置を避けて出入口を設置します。



イ 周囲からの遮へい

行為地の周囲への樹木の植栽等によって、行為地が周囲の道路等から見通せないよう遮へい措置を講ずること。

【基準のねらい】

山の斜面等の目立ちやすい場所で、長期に渡り荒れた山肌をさらけ出したままでは、緑豊かな景観を壊してしまいます。緑化等で遮へいすることによって周囲の道路等からの眺望を遮り、周辺の景観に影響を与えないようにする工夫が必要です。

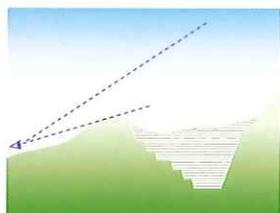
【景観づくりの手法】

□ 地形を生かして遮へいする

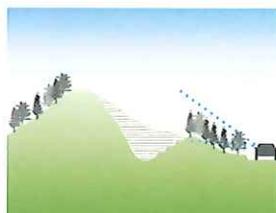
現況の地形を生かすことにより、周辺から直接行為地を見通せないようにすることができます。

□ 植栽によって遮へいする

植栽によって遮へいすることにより、周辺から直接行為地を見通せないようにすることができます。



現況の地形を生かして遮へいする。



緑化によって遮へいする。



× 事業終了後、地肌をさらけ出したままの山の斜面は、周辺の景観を阻害する。

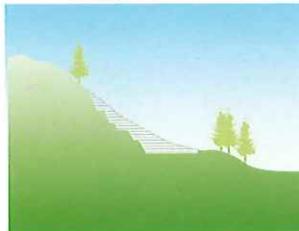


◎ 緑化することで、周辺の自然景観に対する影響を軽減することができます。(フォトモニタージュ)

- ◎：優良事例  
×：景観阻害事例



行為地の分散化により、長大な法面の発生を回避する。



小規模なベンチカットにより長大な擁壁を回避する。



◎ 自然石の擁壁に帯状のコンクリート法面を組み合わせ、圧迫感を軽減している。(長野県茅野市)



◎ 長大な擁壁面に密度の高い緑化を施すことで自然景観と調和している。(広島県広島市)

#### 【用語解説】

ベンチカット：細長い椅子を並べたように段上に後退するかたちで切土や掘削を行う方法。

## 2 跡地の形状

### ア 法面又は擁壁の制限

長大な法面又は擁壁を生じさせないように努めること。

#### 【基準のねらい】

鉱物の掘採や土石の類の採取によって生じる長大な法面や擁壁は、周辺の景観に著しい影響を与えます。特に、行為地が主要な視点場から眺望される場合は、既存の地形を生かし、長大な法面や擁壁とならないよう工夫する必要があります。

#### 【景観づくりの手法】

##### □行為地を分散する

行為地を分散し、既存の地形や緑地を残すなど大きな地形の改変を避けることで、周辺の景観に影響を与えないようにします。

##### □自然の地形に合わせる

自然の地形に合わせ、行為地を緩やかな形状にすることで、周辺の景観への影響を軽減します。

### イ 圧迫感の軽減

法面又は擁壁は、圧迫感のあるものを避け、できる限り低いものとする。

#### 【基準のねらい】

圧迫感のある大規模な法面や擁壁は、景観を阻害する一因となることから、できる限り高さの低いものとする必要があります。

#### 【景観づくりの手法】

##### □植栽を行う

主要な視点場から眺望できる場合は、密度の高い植栽を行うことにより、周辺の自然景観との調和を図ります。

##### □法面と擁壁を組み合わせる

法面と擁壁を組み合わせ、できる限り法面や擁壁の高さを低く抑えることにより、圧迫感を軽減します。

##### □高さの低い擁壁や法面にする

擁壁や法面の高さを人の視点より低く抑えることにより、それらを意識させない景観をつくることができます。

## 2 跡地の形状

### ウ 法面の勾配

法面は、できる限り緩やかな勾配とし、ラウンディング等によって周辺の起伏と滑らかに連続させること。

#### 【基準のねらい】

鉱物の採取や土石の類の採取を行う際には、ラウンディング等で法面を緩やかにすることで圧迫感を軽減し、空間にゆとりや開放感を与えます。

#### 【景観づくりの手法】

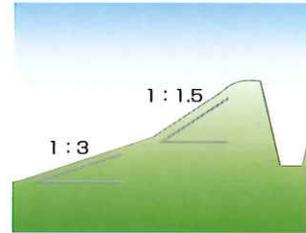
##### □ 緩やかな勾配とする

周辺が丘陵地などの自然の地形において、特に行為によってできた急勾配な法面ができると人工的な印象を与えてしまい、周辺の景観に馴染まないことがあります。鉱物の採取や土石の類の採取を行う際には、周辺の景観との関係を考慮し、緩やかな勾配にするなどの工夫が必要です。

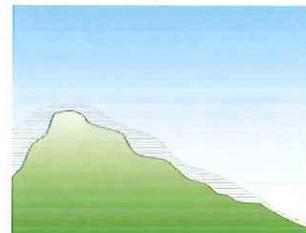
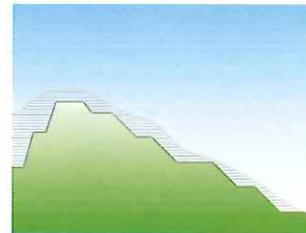
##### □ 人間の視線に近い法面を緩やかにする

急勾配の法面は、歩行者やドライバーに心理的な圧迫感を与えます。法面が周辺の敷地や道路に接している場合には、人間の視点に近い法面の下部に緩やかな勾配を組み合わせることによって、圧迫感を軽減します。

◎：優良事例  
×：景観阻害事例



緩やかな勾配と急な勾配を組み合わせることによって景観への配慮を行う。



法肩と法尻にラウンディング処理をすることによって自然の地形に近い見え方となる。

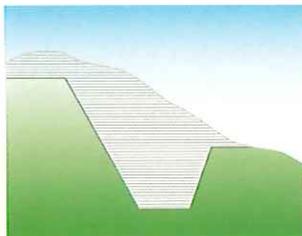
- ◎: 優良事例  
 ×: 景観阻害事例



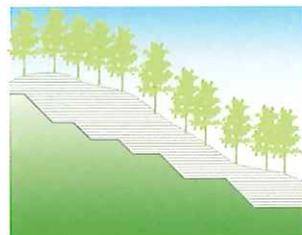
◎ 石積みの擁壁は、柔らかな自然の雰囲気がある。(福岡県福岡市)



× 擁壁面の稚拙な描画が景観に繁雑な印象や違和感を与えている。



速やかに地形を復元し、行為前の自然景観を取り戻すことが重要である。



地形の改変を行う際には緩やかな地形に造成し、緑化を行うことで周辺の自然景観と調和することができる。

#### 【用語解説】

ミティゲーション：人間の行為等により自然環境の影響が予想される場合に、回避、最小化、代替、修復、再生等の措置を講ずることにより、自然環境への影響を緩和することをいう。

## 2 跡地の形状

### エ 擁壁の素材

擁壁の表面は、周辺の景観と調和し、素材の特性を生かしたものとするとともにできる限り緑化に努め、描画等を行わないこと。

#### 【基準のねらい】

擁壁は、土地と連続した構造物であるため、地形や植生と調和することが求められます。行為によって生じた擁壁の表面は、唐突な形態や描画などを避け、周辺の景観と調和し、素材の特性を生かしたものとするとともにできる限り緑化に努めることが重要です。

#### 【景観づくりの手法】

##### □ 自然石を使用する

丸石や間知石の擁壁は、自然素材の特色である柔らかい印象を与えます。このような自然石による擁壁は、表面に複雑な変化があり、自然な印象を与え、周辺の景観との調和を図ることができます。

##### □ 緑化する

コンクリートの擁壁でも緑化することで、周辺の景観との調和を図るとともに見る人に安らぎと潤いを与えます。

## 3 跡地の緑化

### ア 跡地の緑化

行為を終了したところから速やかに周辺の植生と調和した緑化を行うこと。

#### 【基準のねらい】

行為の跡地は、速やかに緑化などの修景をすることにより、損なわれた景観を回復する必要があります。

#### 【景観づくりの手法】

##### □ 行為前の植生を復元する

従前の地形を可能な限り復元し、周辺の植生を考慮した緑化を行うことで、損なわれた自然景観を取り戻すことができます。(自然植生の復元＝ミティゲーション)

##### □ 跡地を利用する

行為を終了した後に、行為の跡地を公園等にすることにより、新しい景観をつくることができます。

##### □ 緩やかに造成して緑化する

行為を終了した後に、緩やかに造成して緑化することにより自然と調和させます。

## 4 その他

### ア 視点場からの視線

道路、河川、公園等の主要な視点場からできる限り見えにくくなるよう、掘採又は採取の位置及び方法を工夫すること。

#### 【基準のねらい】

鉱物の掘採や土石の類の採取を行う際には、位置や方法を工夫することによって、道路、河川、公園等の主要な視点場からできる限り見えにくくし、景観への影響を与えないようにする必要があります。

#### 【景観づくりの手法】

##### □窪地を利用する

行為地は、窪地を利用するなど、主要な視点場から見えない位置を選定することが重要です。

##### □行為地を分散する

行為の規模を小さくして分散させることにより、大きな地形の改変を避けることで、景観への眺望を阻害しないようにすることができます。

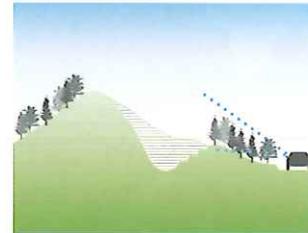
##### □従来の地形に合わせて造成する

行為を行う際には、できる限り従来の地形に合わせて行うことにより、周辺の景観に影響を与えないようにすることができます。

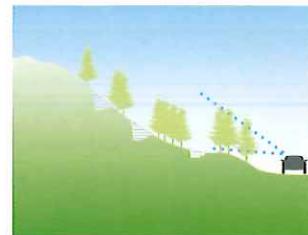
##### □主要な視点場から見渡せる場所を植栽する

主要な視点場から見渡せるところを密度の高い植栽で覆うことで、景観への眺望を阻害しないようにすることができます。

◎：優良事例  
×：景観阻害事例



窪地などの地形を利用し、景観への眺望をまもる。



規模を小さくして分散させることにより、景観への眺望をまもる。

- ◎: 優良事例  
 ×: 景観阻害事例



- ◎ 既存の樹林を可能な限り残し、自然を感じさせる空間として整備されている。(大阪府交野市)



- ◎ 既存の樹林を残すことによって行為地の人工的な景観を軽減している。(岡山県加茂川町)

## 4 その他

### イ 景観資源の保全

行為地内に良好な景観を形成している樹林、河川等がある場合は、それらを保全し、修景に積極的に努め、活用すること。

#### 【基準のねらい】

良好な樹林や河川などは、地域の景観を特徴づける資源であるとともに人々の心のよりどころとなります。鉱物の掘採や土石の類の採取を行う際には、これらの景観資源を保全したり、修景に努めることによって従前の面影を残すことができます。

#### 【景観づくりの手法】

##### □ 樹林を避けて造成する

樹林などの景観資源を保全することは、行為地を視覚的に軽減することから、これらの樹林を避けて造成することが重要です。

##### □ ランドマークやアイ・ストップとなるような景観資源を保全する

ランドマークやアイ・ストップとなるような景観資源を保全して、地域のシンボルとなる景観づくりの核として積極的に活用します。

##### □ 河川を保全する

河川等の水辺は、人々に安らぎと潤いを与える景観資源です。河畔林などと合わせて保全することで、さらに良好な景観が保たれます。